# 図書だより

第　８　号
令和２年度
図書委員会

師走　春待月(はるまちづき)　極月(ごくげつ)
月名の由来：師（僧侶）が年末の仏事のために、あちこちの家へ忙しく走りまわることから。

コロナが未だ終わらぬ令和２年も師走に入りました。多くのことが「今まで通りではない」生活は、まだまだ続きそうです。そんな「新しい生活」に対応するためにも読書は有効です。様々な世界を仮体験してみたり、新しい言葉を知ってみたりしてください。

１４(月)から、７冊貸し出し可です。

返却日は１月６日(水)です。

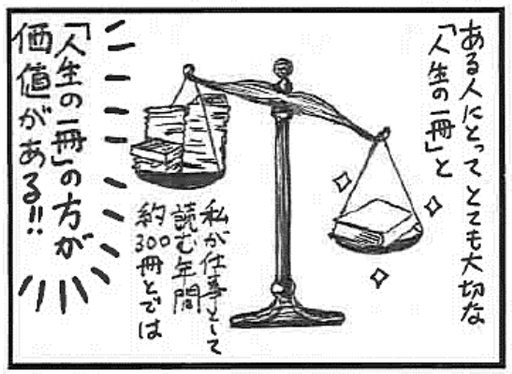
**読書感想画**も募集中！
希望者は**冬休み前に**司書教諭
櫻井まで相談に来てください！

## 新着図書

他にも色々、まだまだ、続々

「江戸川乱歩作品集1～3」江戸川乱歩
「SFストーリー傑作セレクション」星新一、筒井康隆、小松左京、平井和正等
「桃太郎は盗人なのか？―「桃太郎」から考える鬼の正体―」倉持よつば
「赤ずきん、旅の途中で死体と出会う」青柳碧人
「すべては救済のために―デニ・ムクウェゲ自伝」デニ・ムクウェゲ
「子規を「ギャ句(グ)」る～名句をひねると「ギャ句」になりました」夏井いつき
「ライオンのおやつ」小川糸
「水を縫う」「わたしの良い子」寺地はるな
「目を見て話せない」似鳥鶏
「掟上今日子シリーズ」西尾維新

こんな本もありますよ




## 「新明解国語辞典」第８版に注目！※5冊購入済みです

●今年の２月、「岩波国語辞典第８版」を１０冊購入しました。岩波で新しく追加された言葉は「ドローン」「見える化」「スルー」「無認可」「ウィンウィン」などで、意味が追加されたものに「盛る（おおげさにする）」「虹色（多様性の象徴ともされる）」などがあると紹介しました。

●今回紹介する「新明解」は、左に紹介した「恋愛」の語釈から分かるように、とてもユニークな語釈で有名。他にも「これを意味調べで書いていいの？」とつっこみたくなるような語釈がたくさんあります。

●新たな言葉が追加され、見慣れない言葉が消えていく。**「言葉は生きている。使われなければ死ぬ」**と、ある数学の先生が言っていました。是非、言葉について考える契機にしてみてください。

あなたは「恋愛」をどう定義しますか？

2020.9.30　毎日新聞 「時代に沿った改訂 「新明解国語辞典」第8版」の記事

【恋愛】
特定の相手に対して他の全てを犠牲にしても悔い無いと思い込むような愛情をいだき、常に相手のことを思っては二人だけでいたい、二人だけの世界を分かち合いたいと願い、それがかなえられたと言っては喜び、ちょっとでも疑念が生じれば不安になるといった状態に身を置くこと。